

新緑の美しい季節に - 変わるもの変わらないもの

松 木 真 一

新緑の美しい季節になりました。一か月前に入学した頃は、まだ桜の季節でした。徐々に変わり始めています。今、どのような思いで毎日を過ごしているのでしょうか。期待通りの学校に入学できた、と満足しているのでしょうか。大学生活の楽しさを実感しているのでしょうか。それとも、予想外に戸惑い、期待や希望とは裏腹の何か不安な日々を過ごしているのでしょうか。上ヶ原・神戸三田両キャンパスに入学した多くの学生たちが各々今、こうしたそれぞれの様ざまな思いを胸にとにかくスタートしたところです。

季節が初夏から夏、秋へと変わっていくにつれ、時の変化と共に周りの状況も自分の生活も徐々に変化していくことでしょう。友人関係もクラブ、サークル、また大学での勉強や活動もどんどん変化し、何よりも自分自身が成長しつつ、今までに経験しなかったような変化を実感していくのでは、と思います。素晴らしい成長変化を期待せざるを得ません。

しかし、関西学院は学生たちのそうした成長変化をどこまでも期待しながら、同時にもう一つの世界にもしっかり目を注ぐように、と主張し続けてきました。新入生一人ひとり、これから実際に成長変化していく中で、そのこと自体を一步深いところから方向づけ、支えていく、といった何かより深い、一々の変化を超えた確かな変わらない世界にも、です。この点、私自身も実際に経験してきました。関学の中学部高等部で学び大学まで12年間在籍した私は、今またこうして母校で働いています。親もまた関学でしたので、実に実に長い間関学のどんどん飛躍的に成長変化していく様を目の当たりにしてきました。けれども、そうした著しい変化の中に在りながらも、その根底には決して変わるものがない確かなものが終始貫かれている、ということも繰り返し教えられてきました。日々の学部礼拝、春秋の合同礼拝、クリスマス、数々の宗教行事、そして何といても関学の教育全体の様ざまな機会に！このような教えは、もちろん私の経験を越えて、やがて120年目を迎える学院の長い成長変化歴史の中でも繰り返し語り続けられてきたものですし、もっとはっきり言えば人類の歴史的な進

歩変化の底に、人間のいわば「存在の深み」（ティリッヒ）に目を向けさせる真に深い教えでもあるのです。

例えば、神戸三田キャンパスの理工学部生には直接の問いでもあるのですが、現代は確かに科学や技術の驚異的な進歩のおかげで著しく成長変化し、素晴らしい繁栄と幸福を手に入れました。しかしまたその裏面には、ますます深刻な諸問題をも抱え込んでしまいました。自然環境の技術による改変はその因果的累積的結果としての破壊をもたらし、生命の科学技術による自由な操作は深刻な倫理問題を引き起こし、情報技術の進展は様ざまの情報倫理問題をもたらし、核利用の技術は・・・・・・、と枚挙にいとまがありません。科学的な知識や研究、技術はどんなに成果・成長・繁栄・変化をもたらしたとしても、はじめから方向を間違えると、取り返しのつかない結果を招いてしまうのです。知や技術の進歩・成果、それによる人間の生の変化・繁栄には、つねにそれを正しく方向づけ支えるしっかりとした考え・価値観とも言うべきもの、即ち成長変化のプロセスそれ自体を正しい方向に導く、より深いところからのつねに変わらない確実な支えが求められているのです。変わるもの・変わらなければならないものと、これを深みから正しく方向づける変わることのない確実な支えとのバランス、調和のとれた関係こそ、教え示されてきた内容なのです。

何も理系の分野だけのことではありません。むしろ大学の営み全体に問われている大切な問いではないでしょうか。冒頭で、新緑の季節と言いました。緑の木々に譬えて言うなら、つねに成長変化する美しい幹や枝葉や花を、地の中からそうした変化を支え続ける確かな根、それら両者のバランスのとれた関係といったようなものです。「あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです」（ローマ11：18）。

関西学院の建学の精神はマスターリー・フォア・サーヴィスです。つまり、奉仕をするためにマスターするとはいっても、それは単に道徳的倫理的な理念ではありません。どこまでも、より深い宗教性に根ざした理念でありスピリットなのです。関学に入学して、これからいろいろ多くのことをマスターしていくわけですが、同時にそれを正しく方向づける一層深い視野をしっかりと身につけていただきたいと、心から願っています。

（理工学部宗教主事）